MfG_J_kotee_embodiment_of_his_wish

目次

1. 仁太郎の鏝絵蔵の図に込めた想い
「私的な珍説」

2. 鏝絵蔵・鏝絵の配置のテーマ

3. 移動の過程

参考1. 鏝絵蔵全体の図表

参考2.　霊獣・瑞獣、十二支、五大

参考3.　荒俣宏先生の洞察

1. 仁太郎の鏝絵蔵の図に込めた想い

サフラン物語でも説明しておりますが、仁太郎の鏝絵蔵の図に込めた想いの「私的な珍説」です。

鏝絵の構想を練るにあたり、仁太郎は左官の伊吉とあちこち旅行したそうで、魚沼の西福寺の開山堂も参考にしたとされています。どんな鏝絵にしようか、考えながら雲蝶の力作を見た仁太郎は、道元の虎をも諭す物語を、自分の蔵にも是非ほしいと願ったに相違ないと、思った次第です。 そして「何らかの祈り」を新築事務所の鏝絵に込めたのではないか、と考えてみると ・・・

鏝絵蔵の妻側である東向きに面した、軒廻りの二頭の龍、一階と二階の窓の塗戸の霊獣を、以下のように読み解くこともできると思います。
まず軒廻りの二頭の龍は、東面を守護する青龍と、四霊獣の上に位置する黄竜と見做します。一階、二階の塗戸には、南・北を守護する鳳凰と玄武です。でも東西南北の順に、青竜、白虎、朱雀、玄武が守護神とされていますが、この東面には、西の守護神である白虎がおりません。
そこで、鏝絵蔵北面の十二支の虎に、象徴の縞がないことに気付いたことから、もしかして白虎は「東」に遠慮願って北面に移っていただき、その代わりに黄竜と同格の麒麟にお出まし願ったのでは、と思ったのです。

このように軒廻りの天空高くに龍、二階部分の空に朱雀・鳳凰、一階部分に地を駆ける麒麟と水面の玄武があると解釈しました。
各方位の守護神による家運隆盛と、水神を想起させる龍で火難防止という、東面の霊獣が龍を中心として、これしかないというような、絶妙な配置にあると思っています。

北面の十二支の動植物も、新築による、商売の新たな出発しとともに、子孫繁栄と家運隆盛を祈る意味が込められていると思いますが、如何でしょうか。
南面の酉とウサギ、蔵内部の事務所入口の冠木門の扉の大黒様と恵比須様、そして鶴・亀と、ありとあらゆる守護神、お使いの総動員です。
単に贅沢な鏝絵というより、商売永続と家運隆盛、そして地域の安泰を祈った、仁太郎氏の強く深い必死の想いを感じるのです。
この敬虔さも「仁太郎ワールド」の一面なのです。

「巳(ヘビ)と申(サル)がいない」ことについての珍説

　十二支のうち、巳(ヘビ)と申(サル)がいない、ヘビは皆に嫌われるし、サルは去るに通ずるとして、作成から外れた、という説明も可能と思いますが、一方、以下のような解釈も成り立つと思っています。
最近、私は、「去る」の話もありますが、「こっちの話もいいですよね」ということで、次のようなお話をしています。

　十二支は、もともとは穀物の一年、種蒔きから収穫までの十二の推移を表わしたものを、覚えやすいよう、動物に割り当てたと言われています。
その意味では、十二が揃ってはじめて、五穀豊穣になり、一部を省略するのは、真意ではないのでは、と考えてもいいと思います。
そのように考えていくと・・・。

一階の冠木門を飾る戸に、恵比須様と大黒様がいます。
恵比須様は、もともと、漁業の神様でしたが、そののち、商売繁盛、五穀豊穣の神様になった、といわれています。
大黒様も、商売繁盛、五穀豊穣、子孫繁栄の神様です。 ということで、
　巳は、玄武という「生殖と繁殖」を表わす神獣に変化して東面に行き、申は、七福神のうちの恵比須様と大黒様に変化して一階内部に行き、商売繁盛、五穀豊穣、子孫繁栄を祈った、と考えられないでしょうか。
　このほうが、東面の四霊獣による地域の安全・安泰と合わせ、十二支勢揃いによる、商売繁盛、五穀豊穣、子孫繁栄への「懸命な祈願」に合致するように感じています、という説明は、如何でしょうか。

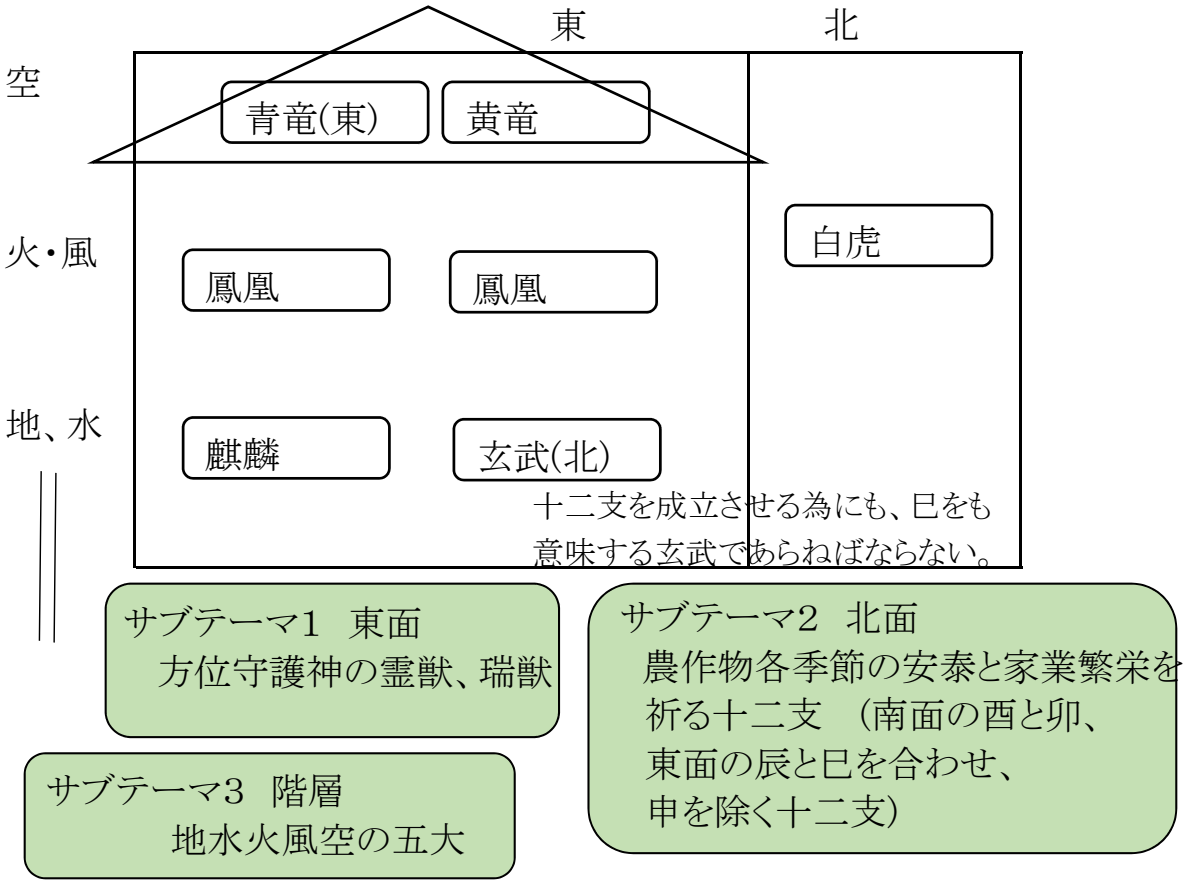
（MfG_J_kotee_embodiment_of_his_wish）

2. 鏝絵蔵・鏝絵の配置のテーマ

虚空に棲み、睨みを利かす青竜、さらに四方守護神の上の黄竜 火のごとく力強く、風の如く自由に舞う鳳凰 大地を自由に駈ける麒麟、水面を自由に泳ぐ玄武 ～　永遠の家業継続と発展、繁栄を祈る

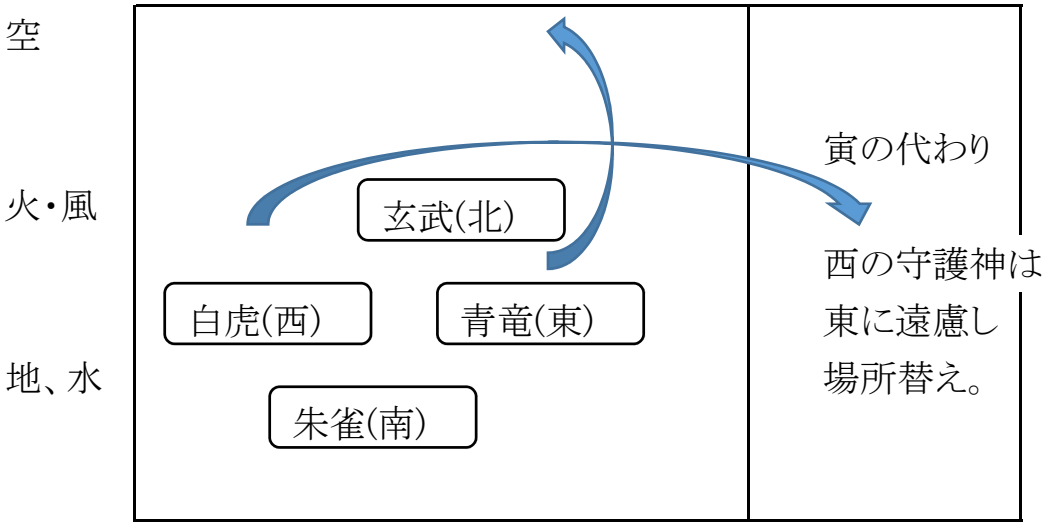
サフラン酒の鏝絵東面は、北面の十二支を併せて考えると、瑞獣の四霊のみでは説明がつきません。 方位守護神・霊獣の四神と、瑞獣の四霊を兼ねた意味を持たせているように思えてなりません 。（解釈の発端は寅に白虎を配したこと。）

霊獣の四神と瑞獣の四霊について
四神は、中国の神話、東の青龍・南の朱雀・西の白虎・北の玄武で、天の四方の方角を司る霊獣である。
また、瑞獣の四霊（応竜・麒麟・霊亀・鳳凰）を四神と呼ぶこともある。
四霊（しれい）とは『礼記』礼運篇に記される霊妙な四種の瑞獣のことをいう。
麒麟は黄龍と同義。　鳳凰は朱雀でもある。

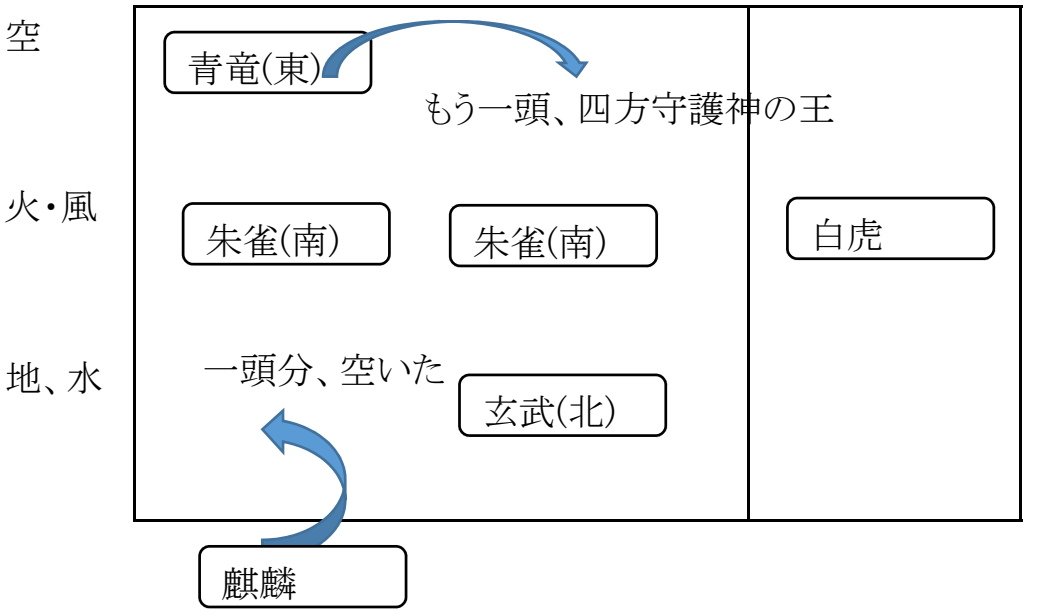


3. 移動の過程

東面　方位守護神の霊獣、瑞獣　　北面　家業繁栄を祈った十二支



東面　方位守護神の霊獣、瑞獣　　北面　家業繁栄を祈った十二支



参考1.　鏝絵蔵全体の図表

1. 全体の配置表

東面に中国の守備神四霊獣と黄龍、北面に日本のめでたい十二支
十二支は中国、韓国、その他のアジア諸国でも、伝えられている。
動物で四季を表現したという説もある。
申(サル)は「去る」を連想させるため不在？

		北面 ①、②③、④　二階 ⑤、⑥、⑦　一階
①亥(いのしし)とススキ 亥は田や作物の神様。	②寅と竹 始まりを表わす縁起のいい動物。 実は白虎か。	東面 ⑧⑨　二階 ⑩、⑪　一階
③子(ねずみ)とオモト 子は子孫繁栄の象徴。 萬年青は新築・改築・ 引っ越しのときに飾る とよいとされる植物。	④丑(うし)と紅葉 丑という文字には、ひとつのことが 終わり新しいことが始まる 「転換」の意味がある。	南面 ⑫⑬　二階 一階の奥⑭と⑮ 屋内南面⑯と⑰
⑤午(うま)と桜 桜はさくら肉からの連想か。	⑥戌(いぬ)と牡丹 戌はお産が軽いため安産祈願の動物とされている。 金銀財宝を象徴する動物でもある。 南総里見八犬伝の八犬士。仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌の 数珠玉を持ち、牡丹の形の痣を身体のどこかに持っている	
⑦未ひつじと芭蕉 未の鏝絵は珍しいらしい。ここと 岡山県津山市の二か所のみ。 逆に、あちこちにある?	土蔵東面の軒廻り、周囲の開口部のまぐさ部、塗戸に 鏝絵。まぐさ部は、開口部の横材。 東面の軒廻りには、二匹の大きな龍で、青竜、白虎、 朱雀、玄武の四獣を従える黄龍と考えると、話が通る。	
⑧鳳凰(左)　正面・上 鳳凰は瑞獣(瑞兆がある ときに姿を現すといわ 霊獣)とされる。	⑨鳳凰(右)　正面・上 鳳凰が降りるときは「聖天子の出現」を表わすとか。 ちなみに鳳凰の頸部は巳(蛇)。 鳳凰は朱雀でもある。	
⑩麒麟　正面・下 鳳凰と並び、瑞獣のひとつ とされる。麒麟が姿を現わ すのは「王が仁政を施す とき」とされる。黄龍と同義。	⑪玄武(亀)　正面・下 干支の巳(蛇)は、古代中国では龍と区別されず、 水神である。 東西南北の順に、青竜、白虎、朱雀、玄武が守護。	
⑫酉とりと菊　南壁面 酉は穀物の収穫(とりいれ)の 象徴で、それが転じて 「福を取り入れる」と いう意味を持つようになった。 正月を祝う。	⑬卯うさぎ　南壁面 卯は五穀豊穣を司る。 一緒に描かれている植物は不明。 形からして松か杉らしい。	
⑭恵比須　一階の奥 七福神の恵比須様が鯛を釣る という、めでた取り合わせ。い 商売繁盛、五穀豊穣を表わす。	⑮大黒天　一階の奥 七福神のひとつで、食物、財福の神。打ち出の 小槌で小判を降らすという景気のよい図柄。	
⑯二羽の鶴に松　屋内南面	⑰鶴と亀　屋内南面 波も見事。	

2. 十二支と七福神・恵比須天と大黒天

北面二階		
猪 寅、虎 子、ねずみ 丑、牛	田の神、作物の神、無病息災 はじまり、決断力と才知 子孫繁栄、財 粘り強さ、転換、堅実、誠実	商売繁盛 新築にあたり決意

北面一階		
午、馬 戌、犬 未、羊	豊作、健康 安産、安全、防御、忠誠、献身 作物が実る、安泰	子孫繁栄、家運隆盛

南面	
酉　とり　　穀 卯　うさぎ	物の収穫、福を取り入れる 五穀豊穣

七福神　　恵比須天と大黒天	
恵比須天	七福神中で唯一の日本の神様。 左手に鯛をかかえ右手に釣竿を持った親しみ深いお姿の、 漁業の神で、特に商売繁昌の神様としても信仰が厚い。
大黒天	大黒天は、大国主命と神仏習合したものである。 大地を掌握する神様（農業）でもある。大きな袋を背負い、 打出小槌をもち、頭巾をかぶられた姿が一般によく知られていて 財宝、福徳開運の神様として信仰されている。
毘沙門天 弁財天 福禄寿 寿老人 布袋尊	

参考2.　　霊獣・瑞獣、十二支、五大

霊獣の四神と瑞獣の四霊について
四神は、中国の神話、東の青龍・南の朱雀・西の白虎・北の玄武で、天の四方の方角を司る霊獣である。
また、瑞獣の四霊（応竜・麒麟・霊亀・鳳凰）を四神と呼ぶこともある。
四霊（しれい）とは『礼記』礼運篇に記される霊妙な四種の瑞獣のことをいう。
麒麟は黄龍と同義。　鳳凰は朱雀でもある。

植物の一年との対応　例えば　https://garden-memo.com/theme/p961/

子（ねずみ）	種になりこれから生命が誕生する状態
丑（うし）	種から芽が出ようとする状態
寅（とら）	土から芽を出した状態
卯（うさぎ）	茎や葉が大きくなる状態
辰（りゅう）	茎や葉がよく育ち形が整った状態
巳（へび）	植物が完全に成長した状態
午（うま）	植物の成長が止まり、衰えてきた状態
未（ひつじ）	実がなり始める状態
申（さる）	実が大きくなっていく状態
酉（とり）	実が熟した状態
戌（いぬ）	植物が枯れている状態
亥（いのしし）	植物が種に生命を閉じ込めた状態

ちなみに、後づけの動物、Chinese Zodiac の意味するところは、

子（ねずみ）	Rat	子孫繁栄
丑（うし）	Ox	粘り強さ・努力
寅（とら）	Tiger	行動力・決断力
卯（うさぎ）	Rabbit/Hare	飛躍・家内安全
辰（りゅう）	Chinese Dragon	出世・権力
巳（へび）	Snake	生命・金運
午（うま）	Horse	健康・陽気
未（ひつじ）	Sheep	安泰・穏やか
申（さる）	Monkey	魔除け・利口
酉（とり）	Rooster/ Cock	商売繁盛・親切
戌（いぬ）	Dog	忠誠・子宝
亥（いのしし）	Pig/ Boar (Chinese Zodiac)	無病息災・正義

五大
インドで生まれ、仏教の中の思想として、中国、日本に伝わる。
宇宙（あらゆる世界）を構成しているとする地・水・火（か）・風（ふう）・空（くう）の五つの要素のこと。
地 – 大地・地球を意味し、固い物、動きや変化に対して抵抗する性質。
水 – 流体、無定形の物、流動的な性質、変化に対して適応する性質。
火 – 力強さ、情熱、何かをするための動機づけ、欲求などを表す。
風 – 成長、拡大、自由を表す。
空 – 虚空とも訳され、色即是空の空とは異なる。

参考3.　荒俣宏先生の洞察

荒俣宏先生は早くから、機那サフラン酒の鏝絵の意味につき、明確に、洞察なさっています。　以下に、荒俣宏,"アラマタ美術誌",新書館(2010)のなかで、機那サフラン酒の鏝絵について記述している箇所を示しました。

p91　真打ともいうべき超大作をご紹介しましょう。
新潟県長岡市摂田屋町にいまも存在する機那サフラン酒本舗という酒屋さんの蔵です。ここの装飾が鏝絵になっています。ものすごいでしょう？

p93　サフラン酒本舗の壁に取り付けられた鏝絵は、十二支と四方位の神獣を描いたものでした。十二支は、旧暦の基礎となる陰陽五行説に関係があり、日や月や年の吉凶を占う目印でした。それを装飾に用いるのは、幸福と繁栄をもたらそうとする「呪術」です。高松塚古墳の壁画に四神図が描かれたことと、まったく同じ意味をもちます。

p93-94　さて、十二支というのは十二ケ月のシンボルであると同時に、十二刻、つまり一日の時間のシンボルでもあります。十二支は要するに一年のサイクルをあらわすわけです。それが全部描いてあるということは、一年が無事におわるようにという祈りが込められていると考えられます。サフラン酒の正面には、きれいな扉に大黒様と恵比須様が描かれています。小判を持っていますから、家内安全・家業繁栄を意味していることがわかります。つまり一家が幸せになるようにというメッセージが込められている。入口にはいったところに、麒麟、龍、鳳凰、神亀など、この世には存在しない架空の動物たちが描かれています。風水による都市の方位防衛仕法を実践する、中国由来の神獣が四体とも描かれているのです。この土地が守られ、季節がちゃんと巡行しなければ、いい酒ができないからです。鏝絵は、おおむね、このような「願い」や「護符」をモチーフとする装飾であります。

p94　節のタイトル
機那サフラン酒本舗の鏝絵は異国の装飾も連想させる
ヨーロッパのフレスコ画にあたるのが、日本では鏝絵・・。
サフラン酒本舗の蔵が、「うわべを飾るアート」の本質を教えてくれる・・・

p121　鯉の滝登り（島根県大田市の鏝絵）に関して
立身出世して王権を握ったり、あるいは願いが叶ったりするもののシンボルてありました。

そのほか、　荒俣宏,"黄金伝説"集英社文庫(1994)